

4月度研究交流例会を下記の要領により開催いたしますので是非ご参加ください。

今回は横浜国立大学名誉教授の吉森賢と先生と当学会会員で淑徳大学兼任講師の武谷香先生による報告を予定しております。

両報告を中心に、幅広い意見交換を通して問題意識を共有できればと存じます。平成 28 年度最初の研究交流例会です。各位の積極的なご参加を期待します。

#### 記

1) 日 時 平成 28 (2016) 年 4 月 23 日 (土) 午後 14 時より午後 17 時

2) 場 所 経営倫理実践研究センター (BERC) セミナー室

3) テーマおよび報告者

①14 時 00 分～15 時 20 分「フォルクスワーゲン社の排ガス不正ードイツ同族企業統治の限界」

報告：吉森 賢 氏 (横浜国立大学名誉教授)

②15 時 40 分～17 時 00 分 「高等教育における「倫理」の位置づけと、「ビジネス倫理」への連続性について考える」(仮)

報告：武谷 香 氏 (当学会会員、淑徳大学兼任講師)

報告概要

\* 報告①：吉森 賢 (よしもり まさる) 氏

VW 社の排ガス不正の最大の原因をカリスマ化したピエヒ監査役会会長の自己過信に求める。他に世界一への量的目標、真の創業者・所有者の不在、筆頭株主の州代表の監督機能不全、同族両家系間の不和と同族統治の欠落、両家系間の VW 社買収の攻防と公営企業から同族企業への変容、公開企業なるも非同族株主は無議決権、市場による企業統治の欠如、資本側・労働代表間の馴れ合いと労働側代表による監督機能喪失、などを明確にする。

\* 報告②：武谷 香 (たけたに かおり) 氏

今日の若年層は、幼少から様々なメディアや情報に触れる中、それらの質を識別し、真実に迫る情報を掴み取る倫理的構想・判断力も、益々問われてきている筈である。一方、中等教育では「倫理」「現代社会」等の関連教科がどう学ばれ、それが高等教育機関入学者の「倫理」へのイメージ形成、入学・学習前後の考え方や行動変容にどう影響しうるか。

このような課題設定の下、現代の大学に求められる「ビジネス倫理」教育の中核となる論点を検討したい。

4) 参加費 正会員：1,000 円 学生：500 円 (当日、例会会場にて申し受けます)

5) その他 ご出欠の確認を致したく、参加申込用紙 (裏面) に必要事項をご記入の上

4月20日(水)迄に Fax または E-mail にてご返信ください。